

2020年4月2日
国際子どもの本の日

IBBY リリース

国際児童図書評議会（IBBY）は、5月4日（月）に、インターネット上で記者会見を行います。

記者会見では、国連の世界人権宣言を支持するという公式声明を読み上げ、また、9月にモスクワで開催を予定されている第37回IBBY世界大会に関する最新情報をお伝えします。

さらに、IBBYの国際的な賞、「国際アンデルセン賞」「IBBY朝日国際児童図書普及賞」「IBBY-iRead読書プロモーター賞」の受賞者を発表します。

「国際アンデルセン賞」は、1953年に創設された、子ども本の作家と画家に贈られる最高の国際的な賞です。2009年からは、韓国のナミ島がスポンサーになっています。2020年は、世界じゅうから34名の作家賞候補と36名の画家賞候補が推薦され、1月には、それぞれ6名のショートリスト（最終候補者）を発表しました。最終候補者のメッセージビデオはYouTubeでご覧いただけます。<https://www.youtube.com/watch?v=8gbY-CB05kI>

「IBBY朝日国際児童図書普及賞」は、永年、子どもや若者への読書普及活動に努め、目覚ましい成果をあげた団体に、隔年で贈られます。1986年の創設以来、日本を代表する新聞社のひとつ朝日新聞社がスポンサーになっています。今年も25の団体が推薦されました。受賞団体には、2年に一度開催されるIBBY世界大会において1万ドルの賞金と賞状が贈られます。

「IBBY-iRead読書プロモーター賞」は、中国の深圳（しんせん）iRead財団とIBBYが、子どもの本の普及に貢献した個人の業績を世界じゅうに知らしめるため創設した新しい賞です。2020年は、19名の候補の中から2名が選ばれました。受賞者には、それぞれ20万人民元（約28000ドル）の賞金が贈られ、さらに、受賞者が指名する非営利の読書推進団体へ15万人民元（約21000ドル）が寄付されます。